HOKKAIDO UNIVERSITY

| | |
|---|---|
| Title | 学会訪問記 ： 海外編 |
| Author(s) | 杉江, 聡子 |
| Citation | Sauvage ： 北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院院生論集, 8, 15-24 |
| Issue Date | 2012-03 |
| Doc URL | https://hdl.handle.net/2115/49153 |
| Type | departmental bulletin paper |
| File Information | Sau8_002.pdf |

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

# 学会訪問記～海外編～

杉江　聡子
国際広報メディア専攻　博士後期課程

## （１）学会発表のススメ

### STEP 1：学会に入ろう

学生というのは自由の代名詞みたいなもので、好きなことを一生懸命に学ぶ自由を自他共に保証されている立場です。なんという幸運！しかし、自由を享受するには責任も果たさねばなりません。ぶっちゃけて言えば、学生ひとりひとりが国際広報メディア・観光学院を代表して、「こんなに優秀な人材がこんなに意義深い研究をしてこんなに社会に成果を還元しているんだぜ！」ということを PR して歩かねばならないということ。こうして文字にしてみると、身が引き締まる思いですね(恐)。

さて、大学院生として「研究」という名の学びの世界に一歩踏み出したからには、自分に締め切りを課すことが必要です。もちろん、学院の行事として「中間発表会」、「経過報告会」等の与えられた締め切りもありますが、内輪で「守られた状態」から時折踏み出して、世間の厳しい風当たりを感じる「M 的感性」も大切ではないでしょうか（爆)。ただし、あまり大層なことは考えず、「頑張ればできそうかも」な目標を探すとよいでしょう。

では、どんな締め切りを？それが学会発表です。では、どんな学会を？さしあたり、指導教員やゼミの先輩などに、所属学会を聞いてみましょう。日本国内と海外の代表的な学会の名が挙がってくると思います。目星をつけて、さっそく学会の公式 HP にアクセス！会の主旨や過去に発表された研究題目をざっと眺めて、「若手研究者」とか、「新時代のアプローチ」的な表現を多用しているものは、大学院生にもってこいです。国内外１つずつくらい決めて、入会しましょう。ここでお金をケチってはいけません。自分に投資するつもりで、えいやっと入会金を振り込みましょう。

ちなみに、私は中国語 e ラーニングの研究をしているので、国内では「中国語学会」、「中国語教育研究会」、「教育システム情報学会(JSiSE)」に所属しています。海外では、「世界漢語教学学会（中国)」、「中文教学現代化学会（中国)」に所属しています。

### STEP 2：国内の全国大会や支部研究会に参加しよう

過去に社会人や研究員としての経験があり、十分な研究業績を持っている人はさておき、ちんまりと研究を始めた大学院生は、いきなり「学会発表せよ」と言われても腰が引けてしまいます。そこで、「支部研究会」や「全国大会」など身近なところから参加して、様子を知るところから始めましょう。フィールドワークのような気持ちで臨むと楽しいかも？自分と似たような若手研究者や大学院生が発表しているのを見ると、あら不思議。なんとなく自分にもできそうな気がしてきます。次回の「支部研究会」や翌年度の「全国大会」参加を目指して研究をまとめてみようかな、という意欲がちょっとだけわいてきます。ここでテンションが上がっているうちに、指導教員、先輩、同期の学生などに「学会発表するんだぜ！」と吹聴して、

自ら退路を断ちましょう。

### STEP 3：学会発表を申し込もう

学会発表にはいろいろなメリットがあります。大勢の専門家の前で話すことで自信が付きます。様々な視点から研究の「穴」を指摘してもらうことで、研究の改善に役立ちます。同じ分野の若手研究者と知り合う機会であり、友達が増えます。毎年、学会で顔を合わせる友達ができると、会うたびに「一緒に頑張ろう！」という勇気をもらえます。その土地の特産品や観光も楽しめます。「学会発表行ってきました」とか言ってゼミでお土産をさっと出す姿なんかは、ちょっと素敵に見えます。COOOOOL!!（笑）

学会発表したい気持ちになってきたところで、問題は財源です。現実問題として、お金がないと学会参加費、交通費、宿泊費などが払えません。大学院の学会発表助成制度をフル活用しましょう。前期・後期にそれぞれ教務で申請することができます。また、国際学会であれば、大学全体の研究助成金や外部基金の国際学会発表支援制度などがあります。学院 BBS をこまめにチェックし、それらしいものがあればどんどん応募しましょう。こういうのは出したもん勝ち！（爆）

通常、学会発表の流れとしては、①研究者情報とアブストラクト（要旨）で申請→②発表の可否が採択される→③論文やポスターなどの正式な発表資料を作成して最終申請、という感じです。②で採択が決定された時点で、学会発表の権利が確定しますので、上記助成金などの申請ができるようになります。この助成金は後日、銀行口座振込されるので、実際の手配時には自分で支払うことになります。最近は、多くの学会がオンライン申請の形を取っています。申請書の送料などもかからず、時間的にも締切ぎりぎりまで申請を受け付けられることが多くなりました。

### STEP 4：発表に向けて準備しよう

学会発表が採択され、発表支援の助成金も受理されたら、論文やポスターをしっかり完成させ、最終的な申請を済ませます。また、発表時の提示資料（PPT やハンドアウト）も作成します。発表時には PPT 提示が一般的かと思いますが、会場と自分が普段使っている PC 環境の違いで思わぬ不具合や表示エラーが発生することもあります。運営事務局などへ問い合わせて事前に AV 機器や PC 環境チェックすること。PPT の新旧各バージョンを作成して、表示確認しておきましょう。また、会場で何かあってもデータを修正できるよう、必ず自分が普段使っている PC を持参しましょう。

飛行機、列車、宿泊を予約するほか、学会会場周辺の地図やアクセス方法なども入念に調べます。初めて訪れる土地では何かと手間取ることが多いので、時間は余裕をもって計算しましょう。１時間前に到着するくらいの意識で。総合大学などはキャンパスが複数地区にあったりしますし、何キャンパスのどの建物で、どの門からどういう道順で行く、など、案外迷っちゃうものです。食事は発表申請時に事前予約のお弁当か、自分で買って持って行くことになります。発表を控えた状態で、外に食べに出るというのはあまり現実的ではありません。発表が午後最初のグループだったりすると、動作チェックの順番待ちなどで昼休み時間はあまり取れないので注意！

**STEP 5：いざ！学会発表へ出発**

いざ！出発…の前に、持ち物チェックをしましょう。旅の側面からの持ち物はさておき、学会発表で必要な持ち物は下記でしょうか。

□自分が普段使っている PC
□論文原稿、発表時提示 PPT の電子データ（USB メモリに保存）
□論文原稿、発表時提示 PPT のプリントアウト
□発表用シナリオ（話す内容の原稿。ライナス毛布的に、あれば落ち着いて発表できる）
□参加費を事前振込した場合は、振込証明の領収書やレシート（受付で二重請求されてはたまらん）
□航空機や列車のチケット類（e チケットまたは切符）
□宿泊予約確認書（メール、WEB ページなど）のプリントアウト
□会場周辺地図、アクセス方法、交通機関の時刻表などのプリントアウト
□会場運営事務局の緊急連絡先（万一の非常時連絡用）
□発表時着用のスーツ＆靴
□現金はちょっと多めに用意（たぶん色々お土産買っちゃう）
□クレジットカード（現金が足りなくなったらこれだけが頼り、特に海外は VISA が神）
□携帯電話＆充電ケーブル
□腕時計（発表会場の教室に時計がないことあり）
□身分証明書（免許証、パスポート、学生証など）

当日、そのまま会場へ直行して発表でない限り、行き帰りはラフな普段着でスニーカーというのがベストです。たくさん歩くし、電車に乗り間違えてダッシュするかもしれないし。手持ちのカバンが多くても不便です。リュックなど動きやすい恰好で。

一般的に、学会初日は参加受付＆基調講演など全体で偉い先生のお話を聴くだけ、という形式です。2 日目以降に分科会で研究発表があり、最終日の夜に懇親会、海外であれば全行程終了の翌日に 1 日観光ツアーが予定されている場合が多いです。

自分の発表には全力で真剣に取り組み、後はうんと楽しむ気持ちで！1 回の学会発表をするだけでも、たくさんの出会いや、刺激や、学びがあります。学会発表を大学院の研究生活に織り込むことで、普段の生活にはない糧を得て、楽しみながら、より充実した日々がおくれること間違いなしです！！

## （2）国際学会に行こう！シンガポール学会報告

2011 年 9 月、シンガポール中国語教育研究センター[1)]（Singapore Centre for Chinese Language, SCCL）主催の国際学会、「华文作为第二语言之教与学（第二言語としての中国語の教えと学び)」で研究発表をしてきました。どんな学会で、どんなふうに発表し、学会の会期中どう過ごしたのか、ざっくりではありますが、ご紹介します。

2010 年の終わりごろ、メールで 2011 年の国際学会開催のお知らせが届きました。一度、国際学会に参加すると、このような通知がしばしばメールで送られてきて、自分で探さずとも翌年の国際学会やシンポジウムの情報が入手できるようになります。SCCL の主旨を読み、大いに同意[2)]。さっそく申し込み。私の研究の核にある思いは、日本で第二外国語として中国語を学ぶ学習者にとって、それぞれが自分にとって意味のある言語運用をして、楽しく、かつ「中国語を使えた」と実感できるような学び方を実現することであり、そのためにインターネットを活用して、中国の学生とのオンライン交流を実践しています。

一次審査は無事にパス、2011 年 6 月までに論文全文を投稿する旨の指示が来ました。学会の公式サイトから論文フォーマットをダウンロードして、既定の書式に従い執筆します。海外の学会では、参加費や論文集の代金はオンライン清算するか、現地での現金支払いです。今回は実行委員会推奨の方法、PayPal でのクレジットカード清算をしました。

発表採択が決定された時点で、教務に学会発表助成金を申請。併せて、現地ホテルや航空券の見積もりを取ります。助成金で学会発表に行く場合、「正式なお見積もり」と申請する交通機関及び金額を明記した行程表も提出しなければいけません。お金の計算は重要。また、航空券の搭乗半券や各種領収書を帰国後に教務に提出する必要があるので、申請部分については領収書などを確実に保管しておく必要があります。今回は、航空券は生協で購入し（成田経由で往復 70,620 円)、この部分が半額補助されました（現在は片道 5 万円上限に改訂)。ホテルは学会の実行委員会を通じて推薦ホテルをメール予約しました（9/6～9/11 の 5 泊、ツインルームのシングルユース、@190 シンガポールドル)。

会期近くになると、様々な情報がメール添付で送られてきます。会場地図、アクセス方法と地下鉄の路線図、分科会のタイムテーブルなど。この学会はかなりきめ細やかな対応でしたが、この手の情報がかなりぎりぎりにならないと送られてこない学会もあるので、油断せず自分でもちょくちょく調べておきます。

6 月、論文の全文を投稿。中国語論文を投稿し、中国語で発表をするため、早めに原稿を完成させて、中国人留学生（博士）にネイティブチェックしてもらいました。ここが国際学会のちょっと厳しいところ。英語など外国語で論文を投稿する場合は、質を保証するためにも、適切なネイティブチェックに配慮すべきです。ぎりぎりまで執筆するというわけにはいきませんので、ネイティブチェックと修正作業

---

1) シンガポールで 2009 年に設立された、中国語教師の育成や第２外国語としての中国語の教育方法などを研究する専門機関。

2) リー・クワンユー顧問相は、シンガポールの華人の子供たちの「中国離れ」を改善すべく、読み書きからはじめる勉強方法や試験のための教育方法を是正し、「話す」「聞く」という基本に重点をおき、子供たちが楽しく勉強できる仕組み作りを強調している。

も込みで計画する必要があります。

9 月 6 日、新千歳から成田経由でシンガポールへ。成田発のシンガポール便は真夜中に到着します。夜中に着くって！？と思うかもしれませんが、シンガポールは非常に治安がよく、夜中でもタクシーがちゃんと空港で待っていてくれるので、安心です。ちなみに、私は子供のころにシンガポールに住んでおりまして、2008 年にも両親を連れて訪問したので、心理的にも不安のない状態でした…が、初シンガポールだとしても、まったく問題ないと思います。

南国らしいデザイン
シンガポール・チャンギ空港

華僑系のホテルローヤル
MRT 駅徒歩 5 分程度でアクセスもまあまあ

当日はチェックイン後、湯船につかって各種充電、即就寝。書き忘れましたが、海外のホテルを予約するときは、できるだけバスタブ有の部屋をリクエストすることをお勧めします。寝る前に湯船につかると疲れが取れて、体力の持ちが全然違う気がします。

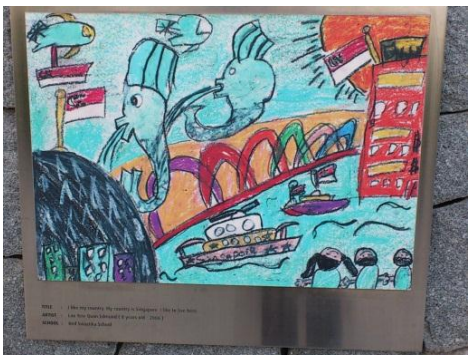
9 月 7 日、学会受付の日。今回は、実行委員会のスタッフもこのホテルに宿泊しているため、海外からの参加者はホテルのフロントで受付 OK とのこと。なんとラッキーな！午後から受付開始というので、朝食後、ホテル周辺からオーチャードロード界隈までちょっと散歩。実は今回、初めて iPad2 を海外へ持って行きました。フリーの wi-fi スポット（Mac café とスタバでやってみたが Mac の方が◎）を見つけて利用設定するのにちょっと手間取りましたが、wi-fi エリア外でも 3G が無事に使えて一安心。しかも滞在期間中、ホテルの無料インターネット回線が故障中とかで、iPad2 がなければ私は部屋からのインターネット代金に悩まされるところでした。

やはり華人の国
中秋節前であちこちに月餅ワゴンが

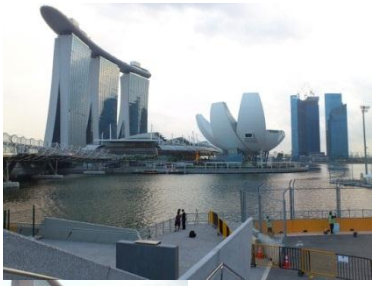
オーチャードのフードコートで
香港風ローストダックのランチ

午後に一度ホテルへ戻り、受付。無事に名札、論文集、各種資料を受け取りました。冊子になって自分の名前が印刷されてると、ちょっとすごい感じがして嬉しい…（内容は同じなのにね　笑）

夕方、夜景がきれいという新名所を徘徊（爆）屋上部分に船が乗った形のホテルをご存知でしょうか？マリーナベイ・サンズというホテルで、巨大なショッピングモールとホテル一体型の観光スポットです。2008 年にはまだ建設中でした。MRT で最寄り駅まで移動し、ぶらぶら散策。散策路には小学生の絵がアート展示されていたり、ブリッジにイルミネーションが付いたりとかなり素敵なところです。ショッピングモールをぐるっと一周、高所恐怖症の私には最上階のガラス廊下は絶叫マシンと同義。ぶるぶるしながら下へ下へ…「★」いくつ！？な高級レストラン、フードコート、カフェなどたくさんありましたが、庶民のフードコート（笑）で「炸酱面（ジャージャン麺)」を食べました。



シンガポールの小学生が描いた
マーライオンらしきものたち（笑）
可愛い！



新名所とあって結婚写真撮影の新郎新婦も数組

ブリッジを渡りマリーナベイ・サンズへ向かう

なぜかフードコートの隣にスケートリンク
他にライオンキングシアターも

ここのメインはカジノと言うが
見たところあまり客足は…

9 月 8 日、いよいよ学会開始です。ホテルから送迎バスで乗り合、会場のシンガポール Ngee Ann Polytechnic Convention Centre へ。バス内でまずは日本から来た中国人の先生たちとお友達に。関西や九州と、西日本勢が多いようでした。

この日は香港、台湾、シンガポールの研究者による基調講演を拝聴しました。とにかく会場が立派！映画館並みのスクリーンと音響設備。さすがポリテクを謳っている大学です。

基調講演の内容として、シンガポールの e ラーニングは、どちらかというと小学生の華語教育における学習管理システムやゲーム教材などがメインのよう。香港は比較的伝統的ながらも、会話インタラクションの教育と評価についてのシステム化について。台湾は、電子化や e ラーニングという形態を盲信することの危険性と反省、適切な ICT 活用に対する問いかけ。改めていろいろ考えさせられるテーマでした。

会場入口、大勢の学生ボランティアに感謝！

開会式にはシンガポール教育相や
大学の偉い方々

会後はまた送迎バスでホテルへ。この日、関西からの中国人の先生たちが何かシンガポールらしいおいしいものを食べたいというので、マンダリンホテルのチキンライス（海南鸡饭）をお勧めし、行き方がわからないというので結局、同行しました。

これ、マジ美味です…ぜひお試しあれ！

スーパーで買った我が愛するマンゴスチンたち

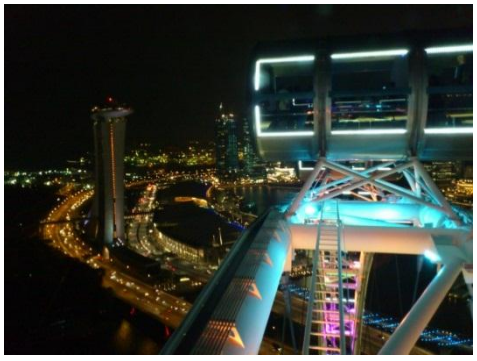
9月9日、この日は分科会と講演を並行して開催していました。自分の発表は午後グループだったので、午前中は講演を聞きながら自分の発表PPTと原稿を最終チェック。去年、中国の別の学会で知り合った楊老師とばったり遭遇、「若いのに日本からわざわざ発表に来て偉いね、頑張ってね」と声をかけてもらいました。嬉しい。若くはないが（爆）

午後の発表前、早めに会場へ行き、PPTを表示したところ、グラフの画像が正しく表示されない。何ッ！？これはおそらくOSとOfficeのバージョンの差によるものですね。時間があったので、その場でグラフを画像としてキャプチャ、貼り直して事なきを得ました。ふう。私の発表は「日本の高校中国語教育におけるICT活用の実践と評価」でした。私のシンガポールに対する特別な思いを挨拶にのせ、用意した通りになんとか終了。大衆の面前とはいきませんでしたが、十数名の台湾、シンガポール、中国の研究者たちが聴きに来てくれました。若手の何人かに質問を受け、自分の研究の意味を伝えられたと思います。普段、ビジネスの場で通訳している経験はあるはずなのですが、ひとあじ違った緊張感があります。ちなみに、私の後の発表予定者がブッチして会場に来なかったため（爆）、質疑応答を延長し、アットホームな雰囲気で、時間いっぱい議論を行うことができました。

香港の新朋友たち
私のつたない広東語を解してくれ感謝

発表セッション終了後は、eラーニングや遠隔協調学習に関連がありそうな分科会を渡り歩きました。香港の中国語入力システム開発者たちと意気投合し、夜の歓迎宴会で同席、お酒を一緒にいただきました。以前、日本の中国語教育機関で講演してもらった香港の先生とも偶然の再開！こういうのってテンションMAXです！！奇声を上げて抱き合う2人（笑）

夕食後は希望者のみのグループで「シンガポール・フライヤー」という大観覧車に乗りに行きました。初日に行ったマリーナベイ・サンズの近くです。円筒形のゴンドラに乗って、かなりゆっくり回ります。夜景が本当にきれい。これはデート向きだな～



シンガポール・ フライヤーからの夜景、対岸のマーライオンもちっちゃいけど見える

残りの1日は文化考察という名のライオンキング鑑賞＆お土産調達なので省略（笑）。

こうして、シンガポールの国際学会はすばらしい出会いと再開に彩られて、無事に終了しました。多くの研究者が一堂に会して、自分の研究や課題を話し合い、共有しながら同じ時間を過ごすというのは、とても貴重な経験です。2012年度は中華文化圏を飛び出して、少し遠くまで、欧州の国際学会での英語発表に挑戦しようと考えています。研究も発表も、やればやるほど穴が増えてきますが、経験は何ものにも勝る教師です。また、今回の学会で出会った研究者たちと、一歩成長した姿で再開を果たせるよう、精進せねばと思います。

いかがでしたか？なんか楽しそうでしょ？行ってみたくなったでしょ？そろそろ2012年度の学会募集が出てくる時期です。自分の研究領域の学会発表にぜひチャレンジしてみましょう！！